

9月1日現在の果実の肥大は平年と比べ、「日南1号」はやや遅く、「興津早生」及び「青島温州」はやや進んでおり、「大津4号」は平年並みです。極早生温州は樹上選果を、普通温州は仕上げ摘果を進めましょう！

令和2年8月の気象

令和2年8月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1半旬を除く全ての半旬で平年より高かった。月平均気温は27.2℃で、平年より1.2℃、前年より0.1℃高かった。

降水量は全ての半旬で平年より少なく、第1～第4半旬は降雨がなかった。月合計は16mmで、平年の11%、前年の22%であった。

日照時間は全ての半旬で平年より多かった。月合計は303時間で、平年の140%、前年の132%であった。

本年は梅雨明けが8月1日と遅かったが、その後記録的な高温・少雨の1か月となった。

表1 令和2年8月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	25.7	26.0	27.6	0	21	0	46	36	54
2	27.5	26.1	27.7	0	27	0	52	36	58
3	28.4	26.2	28.0	0	25	25	58	35	34
4	27.8	26.0	27.4	0	22	0	55	35	32
5	26.2	25.9	26.1	8	19	3	40	35	21
6	27.7	25.7	25.9	8	30	44	53	40	30
平均/計	27.2	26.0	27.1	16	145	72	303	217	229

2 果実及び樹の生育

9月1日における調査園の果実生育状況を表2に示した。横径は「日南1号」が5.6cm、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区平均でそれぞれ5.1cm、5.1cm、5.2cmであった。「日南1号」は平年及び前年の97%であった。「興津早生」は平年の104%、前年の109%であった。「大津4号」は平年及び前年と同程度であった。「青島温州」は平年及び前年の104%であった。

縦径は、「日南1号」が4.3cm、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ4.2cm、4.0cm、4.1cmであった。「日南1号」は平年及び前年の91%であった。「興津早生」は平年と同程度で前年の108%であった。「大津4号」及び「青島温州」は平年及び前年と同程度であった。

果形指数は、「日南1号」が1.3、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ1.2、1.3、1.3であった。「日南1号」及び「青島温州」は、平年及び前年より果実が扁平な傾向がみられた。8月は降水量が少なく、水分ストレスがかかりやすい気象条件であったため、果実肥大が鈍ったと考えられる。

病害虫の発生状況は、梅雨明け後の8月からハダニが増加している。

表2 果実の生育（令和2年9月1日）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	暖地園研	5.6	5.8	5.8	4.3	4.7	4.7	1.3	1.2	1.2
興津早生	三芳地区	5.3	4.9	4.6	4.3	4.2	3.9	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	4.6	4.9	4.6	3.8	4.1	3.8	1.2	1.2	1.2
	暖地園研	5.3	5.0	4.8	4.5	4.3	4.1	1.2	1.2	1.2
	平 均	5.1	4.9	4.7	4.2	4.2	3.9	1.2	1.2	1.2
大津4号	三芳地区	4.7	5.0	5.0	3.9	4.1	4.0	1.2	1.2	1.3
	千倉地区	5.4	5.1	4.9	4.2	4.0	3.9	1.3	1.3	1.3
	暖地園研	5.2	5.1	5.3	4.0	4.0	4.0	1.3	1.3	1.3
	平 均	5.1	5.1	5.1	4.0	4.0	4.0	1.3	1.3	1.3
青島温州	三芳地区	5.0	5.0	4.9	4.1	4.1	4.1	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	5.3	5.0	4.9	4.2	4.1	4.1	1.3	1.2	1.2
	暖地園研	5.2	5.1	5.2	4.1	4.0	4.1	1.3	1.3	1.3
	平 均	5.2	5.0	5.0	4.1	4.1	4.1	1.3	1.2	1.2

各地点の各品種の値は40果の平均

ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した樹がある

果形指数は、横径／縦径

9～10月の栽培管理

(1) 摘果

極早生温州及び早生温州は樹上選果を行う。極早生温州は収穫1ヶ月前の9月中～下旬に、早生温州は収穫1ヶ月前の10月上～中旬に、傷果や病虫害被害果などを取り除き、収穫、運搬及び選果の労力を軽減する。

普通温州は、着果過多により樹勢が低下している場合や小玉になっている場合に、葉果比が20～25程度となるように仕上げ摘果を行う。その際、小玉果、傷果、奇形果、果梗が太い果実、上向きの大玉果などを優先的に摘果する。

(2) 主な病虫害の防除

1) かいよう病

かいよう病の多発園では、台風前の銅水和剤散布を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布により薬害が生じやすいので、2週間は散布時期をずらす。

2) ミカンサビダニ

6月頃から9月まで果実を加害する。被害の拡大を防ぐため、果実1～2個の被害を見たら直ちに防除する。特に、樹冠の内部・上部など薬剤のかかりにくい部分に発生が多いため、摘果時に注意深く観察する。

3) ミカンハダニ

果実や葉を加害する。重要な防除時期は梅雨明け期であるが、気象条件によって早晚があるので注意する。寄生葉率が30%以上になった時点で速やかに薬剤を散布する。

※極早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意する。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話
0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>